

参 考 資 料

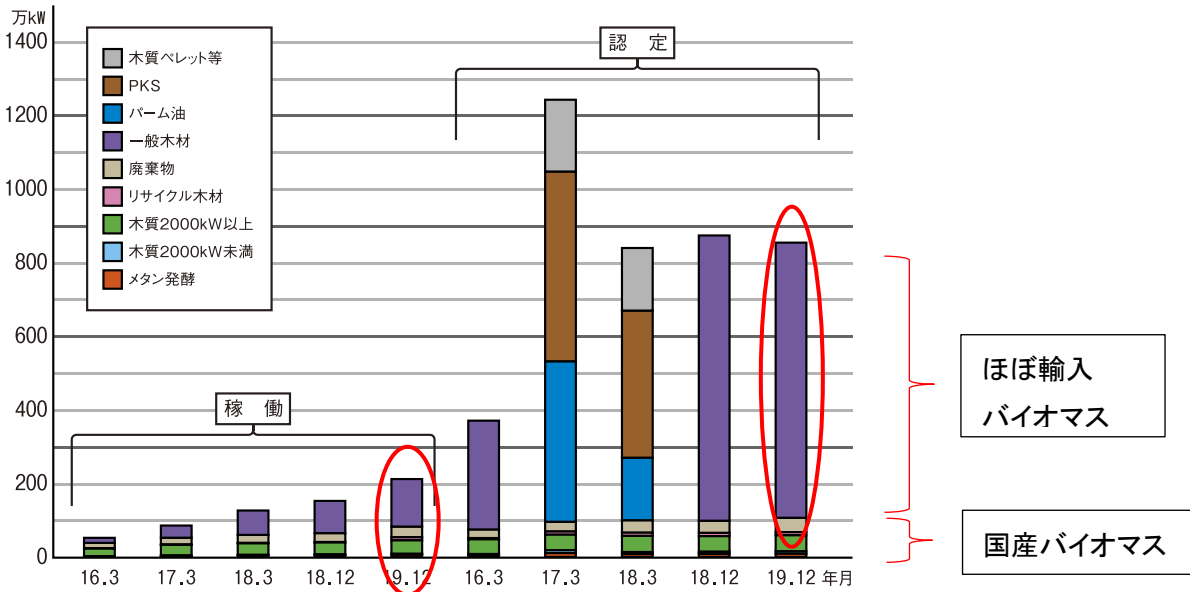


図 1:再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)におけるバイオマス発電の稼働・認定状況 (出所:バイオマス白書 2020)

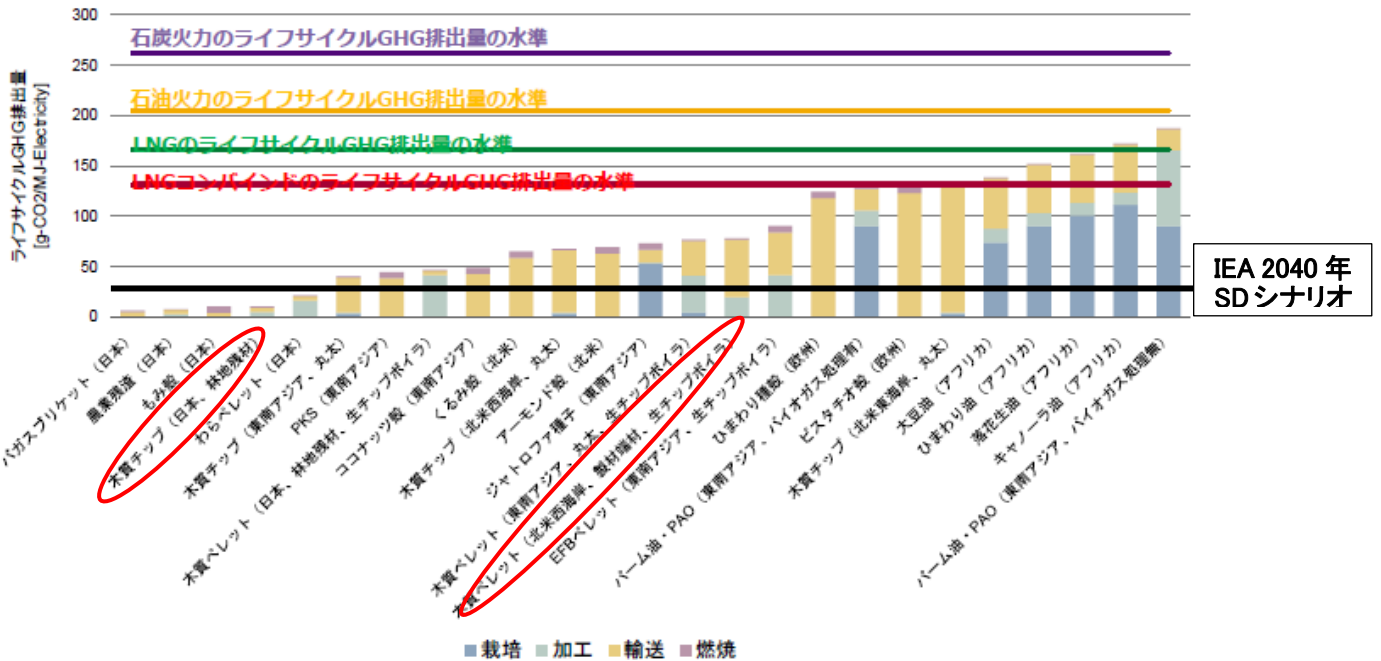


図: バイオマス燃料のライフサイクル GHG 排出量試算 (出所: 経済産業省バイオマス持続可能性WG 第1回資料5)



米国ノースカロライナ州: 木質ペレットの原料として収穫された湿地林 (写真提供: Dogwood Alliance)

- FIT 認定の約9割が輸入バイオマスを主な燃料とするバイオマス発電。
- 認定量の半分が稼働すると、20年間で約8兆円の賦課金(国民負担)が使われるが、その温暖化対策効果は国産バイオマスに比べて小さく、日本の地域経済への恩恵は限られる。
- 国際エネルギー機関の示す2040年に世界で実現されるべきSDシナリオの値を満たすのは、国産バイオマスを燃料とする発電に限られる。

(資料作成: NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク)